

叡啓大学研究推進事業 研究事業期間が終了した課題

令和 6 年度採択課題

研究代表者	上杉 裕子 教授
研究テーマ	Sylvia Plath と Virginia Woolf の比較文学研究—異文化に生きる二人の作家に見るジェンダー問題を探って—
研究成果	本研究は、アメリカの詩人シルヴィア・プラス（Sylvia Plath, 1932–1963）およびイギリスの作家ヴァージニア・ウルフ（Virginia Woolf, 1882–1941）の詩と散文を精緻に読み解くことを基盤とし、英米文化とジェンダーに関する交差的視座からの分析を目的として実施された。両作家の作品に潜在する思想や感性の構造を明らかにし、「母」「妻」「詩人」「作家」としての多面的なアイデンティティに着目しながら、それぞれの立場から提示されたジェンダー観を批判的に検討した。 作品の精読に際しては、英米それぞれの歴史的・文化的背景を十分に踏まえた比較文化的観点を重視し、両者の作品がいかに時代、国、そしてジェンダーという要素の影響を受けて形成されたかについて考察した。こうした分析の結果得られた知見は、個別的でありながらも普遍性を有しており、現代に生きる私たちが自身のアイデンティティや生き方を再考する契機となり得ることが明らかとなった。 現在執筆中の単著においても、両作家が提示した人文学的意義の普遍性を広く社会に伝えることをめざしている。具体的研究成果は以下のとおりである。 <学会発表> – 2024 年 8 月 5 日：叡啓大学 IEP におけるポスター発表（学生との研究成果の共有） – 2024 年 7 月 27 日：日本比較文化学会中四国支部大会（オンライン） – 2024 年 10 月 12 日：日本アメリカ文学学会全国大会（中京大学） <論文（査読付）> – 2025 年 1 月刊行『比較文化研究』第 158 号 pp.19-32 論文題目：「Sylvia Plath と Virginia Woolf の作品を比較して—異文化に生きた二人の作家のジェンダー観」

研究代表者	安富 淳 准教授
研究テーマ	紛争後に残存する武装組織を巡る平和構築の課題：内戦後コロンビアの事例から
研究成果	コロンビア政府は、コロンビア革命軍（FARC）との内戦が 2016 年に和解合意を締結し、FARC 元メンバーに対する武装解除や社会復帰などの持続的な平和社会の実現に取り組んでいる。その一方で、未だ武装組織が数多く残存し、暴力行為、人権侵害行為などによって、地域の治安悪化のみならず、民主化プロセス、経済開発、環境保護、教育、健康といったあらゆる分野において内戦後復興に対する大きな脅威となっている。本研究では、これらの内戦後にも残存する武装組織がどのような外部環境において、また、どのような組織内の条件下で、暴力や平和に対する行動や態度がどのような過程で変化し、組織が変容する（しない）のかを明らかにしようとした。本研究では、コロンビア国内の 4 つの武装組織を事例に、組織内における若手（Z 世代）成員の「労働」意識、SNS・AI の導入、外部アクター（隣国ベネズエラ等からの政治・経済的影響）、電子マネーによる取引などを含めた今日的諸要因が、各組織が地域組織や成員募集などの活動にどのような変化をもたらしているかを調査した。

令和 5 年度採択課題

研究代表者	下ヶ橋 雅樹 教授
研究テーマ	黒瀬川における微小サイズも含めたマイクロプラスチック存在量と生活雑排水処理の関係の解明
研究成果	本研究では東広島市から呉市を通じて瀬戸内海に注ぐ黒瀬川において、標準的なマイクロプラスチック（MPs）調査法では測定できず、下水処理においても処理効率が低くなる微小サイズの MPs（SMPs と呼ぶ）の測定を行った。河川での採水に関しては、水中投げ込み式のポンプにフロートをつけたもので連続採水を行った。また、現場での前処理は、ステンレス（SUS）フィルターを用いて吸引ろ過をした。実験室に持ち帰った後に、過硫酸カリウムと水酸化ナトリウムを用いて 70℃で処理することで、共存するプラスチック以外の成分を分解した。分解後、サンプルはポリテトラフルオロエチレン（PTFE）フィルターでろ過し、乾燥後に顕微 FT-IR での測定を行った。結果として、現場にて 25 μ m SUS フィルターでろ過したサンプルにて、広島県がマイクロプラスチック（0.3～5 mm）調査において黒瀬川で検出しているポリプロピレン（PP）、ポリエチレン（PE）、およびポリスチレン（PS）、ならびに広島湾や安芸津安浦地先で観測している PET が検出された。また、地理情報システムで、流域内の下水道普及状況と人口分布を整理した。今回得られた結果からは、人口分布や下水道普及率と SMPs の明確な関係は見られなかったが、今後の測定結果が蓄積された際のそれらの関係を解析するための情報が整理できた。

研究代表者	安富 淳 准教授
研究テーマ	元反政府ゲリラが参画するコミュニティ・ポリシングは紛争後の社会統合を促進するか
研究成果	コロンビアでは、半世紀以上続いた内戦が終結し、2016 年の和平合意に基づき和解プロセスが開始された。他方、同プロセスは遅れ、コミュニティの治安悪化のリスクを抱えている。なかでも、元武装組織（元 FARC）メンバーの社会統合（武装解除後に一般市民として社会経済生活を営むための社会復帰）の遅れは深刻な課題である。本研究は、武装解除後の元 FARC メンバーによるコミュニティへの社会統合をいかに実現すべきか、との問いのもとに、紛争経験国や新興民主主義国において地域の治安改善効果が実証されているコミュニティ・ポリシングを援用し、元武装組織メンバーが参画するコミュニティ・ポリシングの実行可能性を明らかにするための調査を実施した。元武装組織の社会統合問題について活動する政府関係者、社会統合を支援する市民社会組織（CSO）、研究者、ジャーナリスト、元武装組織メンバー等に対してボゴタ市内で聞き取り調査を実施した。

令和4年度採択課題

研究代表者	LASSALLE Michael W. 教授
研究テーマ	Biodiversity, SDGs, and Eikei University
研究成果	SDGs の重要目標に「3.健康」と「11.6 都市環境改善」があり、空気質保護は改善に不可欠な要素です。都市部には高性能気象台がありますが、里山では高解像度の観測が不足しています。これが無いと Society 5.0 実現と生態系保護は難しくなります。次の問題があります。日本では特殊な低コストの空気環境測定機器のキャリブレーションモデルがないため、これらの機器を使用する可能性が分かりません。そのため、三種類の空気環境測定機器のデータを分析しました。低コストの組み立て済み・校正済みセンサー、自作センサー、高性能気象台を比較し、新しいキャリブレーションモデルを見つけました。一般化線形混合効果モデルを使えば、室内の壁面緑化が室内空気品質に与える影響を評価できると思います。 参考資料 uRADMonitor (n.d.). Global Environmental Monitoring Network. Received from: https://www.uradmonitor.com/ IQAir (n.d.). Air quality near LassalleEikei1, Hiroshima. Received from: https://www.iqair.com/japan/hiroshima/lassalleikei1 Lassalle, M. W. (2024). The present state of low-cost air quality sensors in Japan and their accuracy. <i>International Journal of Environmental Studies</i>, 81(4),1665-1683. https://doi.org/10.1080/00207233.2024.2358716

研究代表者	下ヶ橋 雅樹 教授
研究テーマ	黒瀬川から瀬戸内海に流入するナノプラスチック挙動解析のための数値シミュレーション
研究成果	本研究では、広島県内を流れる黒瀬川とその河口に位置する広湾を対象として、ナノプラスチック挙動を解明するために有効となる、流域および湾内の水挙動に関する基礎的な数値シミュレーションを行った。黒瀬川流域については NP やその親物質であるマイクロプラスチック（MP）の挙動推定のための基礎となる流域水文シミュレーションを、Soil and Water Assessment Tool（テキサス農工大、米国農務省）を用い、国土地理院の標高や土地利用、農研機構の土壌に関するデータ、気象庁の気象データ、広島県の河川流量データをもとに実施した。また、海洋研究開発機構から提供された海流データを用いて広湾内の流動解析を行った。さらに広湾内表層水の MP 調査や、黒瀬川河川敷のプラスチックごみ、河川底砂の MP 様物質の観測を行った。